
同窓会だより

同窓会だより

副会長 野 内 昭 宏

7月17日（日）に、多数の方々のご参列をいただいて当同窓会の創立五十周年記念式典並びに祝賀会を盛大に挙行できました。関係各位には、改めてお礼申し上げます。

ところで、周年記念事業は大きな事業ではありますが、通常の活動も滞りなく行われています。

例えば、卒業年次の学生（歯学科6年生・口腔生命福祉学科4年生）に対して、資料を作成・配布したりビデオも作成して視聴してもらうことで、同窓会への理解を深めていただくこともしました。（写真1、2）

本当はリアルな会合で、（もちろん適切な感染

予防処置をしての上ですが）もう少し濃厚なふれあいをして顔をつなぎ、卒業後においては同窓会の一員として新潟大学歯学部同窓会を盛り上げていただき、逆に縦横を含めた仲間である同窓会を卒業後の拠り所の一つとしての認識を持っていただくことも、この行事の目的のひとつです。しかし、昨今の社会情勢からはそれが叶いません。非常に残念です。早く改善されればと思います。

さて、当同窓会は、新潟大学全学同窓会のメンバーでもあります。10月15日（土）には全学同窓会交流会講演会・懇親会が行われました。学部は違えども、同じ新潟大学で学んだ仲間ということで、他学部の方々とも懇親を深めました。（写真3、写真4）



今日のコンテンツ	
(1)有松 美紀子会長	挨拶
(2)鈴木 一郎 副会長	渉外部・全学同窓会について
(3)佐々木 裕道 副会長	会費について
(4)佐藤 順子 副会長	女性会員支援部、準会員研修歯科医支援部について
(5)野内 昭宏 副会長	同窓会誌・名簿について
(6)内藤義隆 専務理事	最後に

写真1、2 卒業年次の学生（歯学科6年生・口腔生命福祉学科4年生）に対して作成したビデオから



写真3 渡邊健一氏（石本酒造株式会社）による講演会。題名はズバリ「新潟の酒はなぜ美味しい〜美味しいお酒の背景〜」



写真4 参加した歯学部関係者（前列右端は臼杵全学同窓会長）

ICTの発達で、世界のどの地においても瞬時に communication を取ることが不可能ではなく なってきています。しかし、最終的には人と人との繋がり、絆が重要かと思えます。当同窓会も50

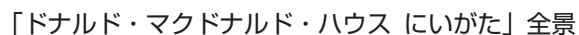


周年記念事業のテーマ「人と人とが繋がり、さらに強い絆を」を胸に、さらなる活動をしていく所存です。

会長 有 松 美紀子

2の我が家」としてサポートするために、また、病気の子どもたちに笑顔を届けることを目的として当施設は設立されました。公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリテーズ・ジャパン（DMHC）が運営をしています。

2019年に新潟大学医歯学総合病院長 富田善彦氏を代表とした募金委員会が発足し、当会も同窓会の使命の一つである「社会への貢献に寄与する」ために、皆様からの貴重な会費の一部を寄付させて頂きました。会員の皆さまには心から感謝申し上げます。



— 65 —

A decorative horizontal border featuring a repeating pattern of stylized floral or star-like motifs. Each motif consists of a central square with radiating lines and small circles, creating a symmetrical, eight-pointed star effect. The pattern is continuous across the entire width of the page.

10月末に事務局の五十嵐さんと内覧に伺い、写真撮影させて頂きましたので写真と共に報告致します。施設内は感染対策と安全管理対策が施され、利用されるご家族がスムーズに日常生活が送れ、ゆったりと寛ぎ、孤独感を軽減できるように他のご家族とも交流ができるように配慮されたつくりになっています。ボランティア登録者は300名で、随時、寄付金や寄付の品物を受けつけています。

医療の進歩により今後も利用されるご家族が増えていくことが予想されます。一人でも多くの子どもたちがご家族と安心して過ごし、治療を受

け、元気になってご自宅に帰られることを願っています。



寄付者を掲出しているデジタルサイネージ

学術セミナーⅡ『見逃すな！、口腔粘膜の異常』を聴講して

歯学科36期生 塚田 哲也

普段、歯科診療に従事していると、多種多様な口腔粘膜の異常に遭遇します。その度に、頭の中の知識の引き出しを開け、また、今までの経験を思い起こし、日々の診療で患者様に説明し、対応していかなければなりません。特に稀な症例に出会うと説明しながら、自分の知識があっているのか不安になることもあります。不安になると、診療後に本棚の奥から書籍を探し出して、もう一度確認することが日常茶飯事です。歯科診療の中でも、華やかなインプラント治療や審美治療など

は、様々な場面で情報が入ってくるので忘れることはありません。しかし、多種多様な口腔粘膜疾患には、稀なものも多く、そうはいきません。

今回、ZOOM形式にて鈴木一郎先生による『見逃すな！、口腔粘膜の異常』と題した講演が配信されました。90分間という短い時間でしたが、口腔粘膜疾患・異常の特徴から最新の話題まで幅広く、明日からの日常臨床でも活用できる多くの情報が盛り込まれた素晴らしい内容の講演でした。また、講演後の質疑応答の時間では多くの質問があり、講演の内容の奥深さを物語っています。

さて、講演の内容について感想をお伝えしたいのですが、あまりに内容の幅が広いため、自分の臨床経験とリンクして特に印象的な部分を抽出してお伝えさせていただきます。



講演中の鈴木先生



視聴中の皆様

A decorative horizontal border featuring a repeating pattern of stylized floral or star-like motifs.

今回、現地とオンラインとのハイブリット開催、かつオンデマンド配信もしてくださったことで、子育て中ですがセミナーに参加することができました。新型コロナウイルスの感染対策のために現在でもさまざまな制限が続いていますが、以前よりも気軽にいろいろな学会やセミナーにオン

ラインで参加ができるようになったことは、個人的にコロナ禍での唯一の良かったことだと感じています。

最後になりますが、このような貴重な機会を提供してくださった同窓会の皆様、講師の岩野義弘先生に感謝申し上げます。



講演会場の様子。今回はハイブリッド開催＋オンデマンド配信で行われました。



質疑応答での一コマ